

自然災害が来る前に 毎日が防災DAY

どうしたら
 いいの?



日本は自然災害大国。
 地震や台風、豪雨など、いつ来るかわからない災害への備えはいつ始めても遅くありません。
 今回はアクティブ防災®を提唱しているNPO法人ママプラグの理事である小暮さんに、
 自然災害への備え方について教えていただきました。

**防災は
 想像力+発想力!**

もし電気が止まったら——灯りが消えるだけでなく、冷蔵庫や電子レンジが使えなかったり、情報収集に活躍するスマホの充電もできない、家の構造によっては水が出なくなったりする可能性も。そんなふうにもし〇〇になったら」と、いろんな状況を想定して、それによって生活がどのように変わるのかを想像するのが、防災準備の第一歩です。想像できたら、次はそれらの事柄に対してどのように備えるのが「わが家にとって」いちばんよいか考えていきましょう。

**いつもの暮らしの
 なかで備えて
 被災時は
 できるだけ
 日常に近い生活を。**

防災グッズ、揃えていますか？
 専用の防災グッズって高価で、でもいつ使うかわからないし、もったいないですよね。備えのすべてを専用グッズにしないで大丈夫。食品や生活用品はいつも食べているもの・使っているものを少し多めにストックしておいて、使った分をその都度補充するようにしていれば、被災時にも使えます。



“もしも”のときにどうするか、
 わが家の場合について
 家族で話あうことが
 大事なんです

特定非営利活動法人
 ママプラグ
 理事/防災士
 小暮 裕美子さん



One Point Advice

子どものいる家庭

地震などの場合、親子が一緒にいるときに被災するとはかぎりません。東日本大震災の際は勤め先から自宅へ帰るのに2日かかった…という声も。
 日頃から子どもの**交友関係や行き先を把握**しておくと、万が一のときに子どもの安否確認をするのに役立ちます。預

け先（保育園・幼稚園など）とは、非常時にどうするかを話し合っておきましょう。また、**子どもと一緒に日頃から防災体験を**。家の中で「真っ暗闇体験」、散歩しながら「危ない場所探し」など、**ゲーム感覚**で楽しみながら取り組むのがおすすめです。





One Point Advice

高齢者のいる (高齢者だけの)家庭

ご近所とのつながりがとても大切です。
「このお宅には高齢者が暮らしている」と近所の方が知っていれば、**被災者救助時の情報源**になりますし、脚が悪くて家から出られなくなっていたところをご近所の方に助けてもらった、という話もあります。困ったときは「遠くの親戚より近くの他人」。まずは**日常のあいさつから始めてみませんか**。また、認知症などの疾患がある場合は、名前と連絡先が確認できるものを日頃から身につけてもらいましょう。



One Point Advice

ペットのいる家庭



最近は同行避難のできる避難所も増えていますが、まだまだ避難所ごとに対応が違うのが現実です。自分の住んでいる場所の**自治体のルールを確認**しておきましょう。

また、ペット用フードや用品は支援物資に含まれていないことが多いので、**自分で用意しておくのが鉄則**。かなりの量・重さになるので、人間の避難グッズ+ペットの避難グッズ+ペットを持って逃げることができるのか実際に試してみると、備える物や備え方、避難方法を考えるヒントになります。

どう
しよう!

災害で家に被害が… そんなときに困らないために。

自然災害は突然やってくるものです。
万が一わが家が被災したときに慌てないためにはどうすればよいのか。
パルシステムの保険代理店、(株)パルふれあいサービスの
事故担当者からのアドバイスです。

わが家の補償内容を確認・把握しておく

地震が原因の被害は火災保険では補償されません。
火災保険と併せて地震保険への加入も検討しましょう。
また、床上浸水などの水害に対する補償も、加入している火災保険の契約内容によっては補償されないことが。水害への補償が付いているか確認しておきましょう。

被災後、安全になったらしておきたいこと

- 複数人で自宅まわりを一周し、壊れた箇所がないか確認する。
昼間と夕方など、時間帯を変えて何回か見て回るのがおすすめ。
- 壊れた場所があった場合は、家全体の写真と、損害箇所の鮮明な写真を撮るだけたくさん撮っておく。
- 床上浸水など急いで掃除をしたい場合は、掃除をする前に保険会社へ電話をし、承諾を取っておく。
- 保険会社から損害認定額の提示があるまでは損害部分を修理しない。
(保険会社が確認しに見に来ることがあるため)

CO・OP共済も昨年の台風で被害を受けた方へ 共済金をお支払いしました。

2019年に発生した台風15号、17号、19号と10月25日の大雨により、多くの被害が発生しました。CO・OP共済では電話やHP、訪問活動で被害の相談と共済金の請求を受け付け、1万1,629件、合計5億4,057万円の共済金をお支払いしました。(2020年3月5日現在)

とにかく、被害があったらまず保険会社へ連絡を。
小さなことでも相談しながら進める方が、
スムーズに保険金の請求ができますよ。
保険証券が見つからないような状況でも連絡ができるよう、
加入している火災保険の
事故受付フリーダイヤルの番号を控えたり、
携帯電話へ登録しておくのがおすすめです。

株式会社パルふれあいサービス
事故対応アドバイザー
小宮 豊和さん



ささえあい・学びあい・たすけあう

LPAによる防災に関する学習会を開催しました

防災学習会「家・家財・車の補償は大丈夫？」

(パルシステム福島)

2020年1月8日開催

※2020年5月末時点、パルシステムグループでは組合員が集合する活動は実施しておりません。

昨年の台風19号では、パルシステム福島も多くの組合員が被災し、甚大な被害を受けました。そのような背景を受け、今後災害が発生した際に被害をできるだけ抑えるには何ができるのかを考える、「家・家財・車の補償は大丈夫？」と題したセミナーを開催しました。

セミナーでは台風19号で実際に被災したLPA※が講師となり、災害前の備えと準備不足の面について、実体験を通し感じたことを話しました。そして、その内容をもとに、グループ毎に持ち出し品チェックシートを使って意見を出し合いました。さらに、家・家財・車の補償について、「民間損害保険の場合の補償はどこまで対象になるのか?」「立地条件によって付ける補償を考える」等の講義も行いました。参加者からは「自身の保険内容の確認が必要だと気づいた。加入してそれで安心していた。」といった感想もあり、気づきの多い時間になりました。



※LPAとは
生協の全国組織である日本コープ共済連が実施する「LPA養成セミナー」を修了・合格した組合員。またはFP2級以上のファイナンシャル・プランナー資格を自ら取得し一定の研修課程を修了した組合員。